社長挨拶

今秋で2年に至らんとする経済危機の渦の中に自動車業界も呑み込まれ、私たちも危機脱出に向けた努力に多くの時間を割かれてきました。現在、回復基調にあるとはいえ、経済状況は完全に2年前に戻ったとは言えません。この間の合理化努力により多くの無理無駄の排除は進みましたが、雇用、賃金、地域活動、納税などでは社会要請に応えきれなかった側面も否めません。私たちは、改善の積み重ねによって社会貢献を果たすべく努力を続けてまいります。

当社は、自動車用軸受などの摺動部部品や軽量化部品、ディーゼル用EGRバルブ、排気制御弁、バキュームポンプなど、自動車や産業機械のエネルギー消費の削減、排気ガス浄化に関わる製品を通して成長するとともに、環境改善に貢献してまいりました。同時に、グループ全社にわたり、生産、調達、教育、地域活動など活動全領域で環境取り組みプランを定め、目標達成に努めてまいりました。本報告書に、その内容をまとめました。

世界不況の一方で、新興国の成長、エネルギーや資源需要の高まり、地球温暖化対策要請の高まりを受けて、自動車技術は大きな転換期を迎えています。そして、この変化は、電気自動車やハイブリッド車への単なる置き換えではなく、多様化と捉えることが出来ます。私たちはこの環境変化を受けて、コアとするトライボロジー技術を軸に、新たに、製品製法の刷新、生産設備や工程のシンプル･スリム化、環境対応製品の開発強化への取り組みを始めました。これらの活動、即ち、製品と生産活動を通じて、社会と環境への貢献を強めてまいります。

皆様のお陰をもちまして本年4月、当社は創業65周年を迎えることができました。これまでのご支援ご厚情に厚く御礼申し上げます。昨年、当社はVISION2015を定め、ビジョンの実現を目指した活動を積極的に進めています。引き続き、皆様のご指導、ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

今後とも、当社の活動を皆様にお示ししてまいります。忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

製品と生産活動を通して社会と環境へ貢献してまいります。

大豊工業株式会社
取締役社長　上田建仁